

「水戸市の地域で共に暮らす 車椅子の私たち」



重度の身体障害のある方が、「地域で自分らしく暮らしたい」と思うのはごく当たり前の願いです。しかし、地域生活を選び暮らしていくには、様々な困難が数多く存在します。

今回は、水戸市で単身生活を送る身体障害者や支援者の声を聴きながら、多くの参加者に実情を知っていただき、地域共生社会としての「福祉のまち水戸」について、みんなで考えてみませんか。

【出演者】 市内在住身体障害者、支援者、近隣住民

【コーディネーター】 土屋和子 氏（茨城大学講師）

【日時】 令和2年2月29日（土）13:00～15:00

【会場】 水戸市福祉ボランティア会館 大研修室

（水戸市赤塚1-1 ミオスビル2F・赤塚駅北口）

※ お車は、赤塚駅北口市営駐車場をご利用ください。

【入場料】 無料（事前申込受付・定員になり次第締切）

【申込先】 水戸市身体障害者福祉センターつどい

水戸市河和田町123-1

（TEL）029-254-6632 （FAX）029-254-6601

【主催】 社会福祉法人 水戸市社会福祉協議会

参加申込用紙

| お名前 | 所属 | 電話番号 | 障害等の配慮 |
|-----|----|------|--------|
| | | | |
| | | | |
| | | | |

《 出 演 者 紹 介 》

【コーディネーター】



土屋 和子 氏 茨城大学講師（人文社会科学部 現代社会学科）

専門は社会保障法。社会福祉関係の問題について、介護福祉・障害者福祉等を含め、法学の分野から研究を行っている。水戸市高齢者保健福祉推進協議会委員等も務めている。

【パネラー出演者】

杉田 桂子 氏 自立支援センターライフサポート水戸理事、つどい利用者

先天性による脳性麻痺を抱える。45歳で「身体障害者生活支援施設いこい」から地域に出て約20年。就学猶予時代や不遇な環境下でありながらも、様々な生活問題に向き合い、皆が住みやすい街づくりを目指し、現在も活動中である。



関 裕一 氏 デイサービスセンターあかつか利用者

境町出身。7歳で交通事故により障害を負うが、26歳から水戸で単身生活を開始し12年。先輩障害者の助言が、現在の生活を行う上で大きな後押しとなったという。今後の未来に夢を持ち、就労を目標にしながら、前向きに生活を送っている。

三浦 大輔 氏 自立生活センターいろは副代表

ひたちなか市出身。進行性筋ジストロフィーを抱える。26歳から水戸に来て8年。支援を得ながら単身生活を送っている。「自立生活センターいろは」の活動はじめ、様々な障害者問題やその活動等にも参加をしている。



増子 宗季 氏 重度訪問介護事業所「クローバー」 管理者

「重度訪問介護事業所クローバー」では重度身体障害者の生活支援を行う傍ら、「自立生活センターいろは」における、障害者自立に向けた体験プログラムへの参加を後押しする支援等、精力的な活動を行っている。

鬼澤 正直 氏 訪問介護事業所「花水木」サービス提供責任者

平成19年事業所開設。重度身体障害者の支援に熱意を持ち、平成26年には、事業所敷地内に重度障害者向けアパートを設置しながら、重度障害者の支援を行っている。



安蔵 秀彦 氏 (有) 共同生活舎 代表取締役

近隣住民枠として出演。パネラーの杉田桂子氏とは近所であり、大家でもある。本人に住みやすい大幅な住宅改修を行い、住みよい住宅提供を行うなど、本人の良き理解者である。



私たちが住みやすい街は、
みんなが住みやすい街だよね！！